

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 栄福 )

事業所番号	0670801109		
法人名	株式会社 ケアサービス鳥海		
事業所名	グループホーム まいづる		
所在地	山形県酒田市麓字10-8		
自己評価作成日	平成30年 7月 15日	開設年月日	平成18年 2月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※1ユニット目に記載

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 30 年 8 月 8 日	評価結果決定日	平成30年 8月 24日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やスタッフルームなど、目の届く場所に掲示している。また、個々で目標を持ち寄り、皆で話し合い、ユニット目標を考え取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、正月には獅子舞い、5月には奴振り、毎月2回のキーボード演奏がある。施設の夏祭りにはポスター掲示し、自治会に加入しているため、回覧板でもお知らせし地域住民の参加がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方と日常的に関わりを持ち、認知症の方の理解に努める努力をしている。また、職員は認知症サポーター養成講座を受講している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、包括、民生委員、家族とで奇数月に開催され、運営状況や行事予定・実施報告を行う。まだ、1回のみ開催のため、これから情報交換行っていきたい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加頂き、生活保護の方には定期的に面談ある。市からの介護相談員の毎月の来設もあり、その都度、連携を図り問題解決に向け協力関係を大切にしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	事業所の方針で、身体拘束はしないと決まっている。帰宅欲求のある利用者に対しては、本人の思いに耳を傾け、散歩や趣味で気持ちを落ち着かせ、センサーなども利用しながら、身体拘束をしない工夫に取り組んでいる。今年度からは拘束対策委員会を設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、参加職員からの報告行い、周知徹底を図っている。職員同士でも不適切な言葉使いなど、お互いに注意し合える関係が出来ている。また、入浴時は必ず身体チェック行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前利用していた方が、後見人制度を利用していたため、職員も知識はありますが、今後、研修会などあれば参加し、もっと知識を深めていきたい。会社より参考書を購入して頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明行い同意を得るよう心掛けている。不安や疑問があれば、再度何度でも説明を行う。また、制度改定時も説明行い、文書で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市の相談員が月に1回来設し、利用者の悩みや思いを外部に表している。家族の面会時などは、積極的に声掛け行い、言いにくいことでも気軽に話せる雰囲気作りに努めている。玄関には意見箱を設置している。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、毎朝の朝礼や月1回の全体会議などで、運営状況など事細かに説明行い、職員の意見も聞き入れ改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から各施設周り、業務状況把握し、随時職員の話しを聞き、働きやすいよう対応している。また、年1回、個別面談を行っている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	半年毎に人事考課を行い、力量を把握している。また、研修委員会が計画し、施設内研修会を実施し、管理者が職員の希望を聞き、外部の研修会にも参加している。研修参加後には、復命書にて全職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域密着型事業所連絡協議会の研修会などに参加し、情報交換を行いサービス向上に努めている。また、他市町村のグループ事業所と連携を図り、情報交換を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴や入所に至る経緯を全て把握した上で、家族の協力も得ながら信頼関係が早期に構築できるよう心掛け、傾聴とコミュニケーションにて安心を確保できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用を前提として話しを進めるのではなく、家族の不安や悩みに耳を傾け、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前に本人・家族と面談を行い希望を把握し、居宅事業所や施設ケアマネ、病院の相談員と情報交換を行いながら、必要なサービスを見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理や掃除、草むしりなど得意な事や興味あること出来る事は、一緒に手伝って頂き、レクリエーションやお茶を飲みながらコミュニケーションを図り、共に楽しみを共有している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と常に情報を共有し合い、共に方向性を見極めながら、家族の絆が絶えないよう、毎月、生活の記録を担当が記入し、郵送している。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの美容院に来設頂き、施設内でカットをしている。また、定期的に図書館へ出かけるなどし、なじみの関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格を把握し、テーブルの配置を工夫したり、症状などによる差別やトラブルにならないよう、間に入りながら、皆で支え合えるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設に入所時は、情報提供行っている。また、病院へ面会に行ったり、終了後も家族の相談にのっている。永眠時はお線香をあげに行ったり、葬儀に参列している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉や表情から、本人の意思を把握できるよう努めている。困難な場合は、家族や友人から聞き取り行っている。また、センター方式のアセスメントを活用している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談や、日常生活の会話や家族、友人との会話などから、生活歴の情報収集を行い、職員間で共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事できない事、わかる事わからない事、習慣にあったかなど多方面から把握に努め、常に変化ないか職員間でも情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いや意向を確認し、さまざまな角度からの介護計画を作成するよう心掛けている。また、3カ月毎にモニタリングを行い、毎月のユニット会議で話し合いを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状態を個別の会議記録に記入し、特に気になる行動や状態は連絡ノートを活用し、スタッフ全員が情報を共有している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>図書館への外出や、嗜好品購入の外出、毎月のボランティアの慰問がある。公園へ散歩に行った時や、施設前を通る方や園児とあいさつを交わし、楽しむことができるよう支援している。</p>		
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>家族受診や施設受診介助、訪問診察は2か所のクリニック、往診1医院など、家族や本人の希望を聞きながら対応している。家族受診でも、車いす使用で送迎困難な場合は、施設で送迎している。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員を配置し介護職員と連携を図りながら、日々の健康管理を行い、体調の変化や急変があった場合は、相談や指示を仰ぎながら対応できる体制を整えている。</p>		
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は、早急に病院の相談員と病状や経過、予後など連絡を取り合い、退院時は迅速に帰設の準備を行っている。また、入院中は本人へ面会に行い、加療状況を確認し家族とも連絡取り合っている。</p>		
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合の対応や看取りについて入所時に説明し、同意を得ている。看護師の配置もあり、AIも使用しているため、今後は希望があれば、看取りに関しての対応にも取り組んでいきたい。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>心肺蘇生とAEDの操作の講習会を施設内で実施し、殆どの職員が参加している。また、マニュアル作成し、いつでも確認できるようにしてある。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防立ち合いのもと、火災・地震・日中・夜間想定などの防災訓練を行っている。また、自治会長の緊急連絡網での応援体制も整っている。		
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の言動を否定せず、その時の思いや気持ちを考えながら、本人には必ず確認し自己決定しやすい言葉かけをしている。また、排泄時のプライバシーに配慮し、言葉かけには十分気を付け対応している。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示しやすい環境や場面を作るよう心掛け、押し付けにならないよう、選択肢を設けるようにしている。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の訴えを傾聴し、声掛け、付き添い、必要な介助を行っている。また、利用者の選択肢が広がるような声掛けを意識し支援している。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時などは、好みの服を選んで頂き、散髪なども自分の好みでカットしている。また、好みのクリームなど、家族より持参して頂いている。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は委託しているが、行事食を依頼提供している。食器拭きや食器洗いなど、一緒に片付けをしている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録し、体調不良や食欲不振時は高カロリー食を補食し、水分摂取量の少ない方には、水分補給ゼリーを提供したり工夫している。嚥下困難な方にはミキサー食やトロミにして提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	習慣により毎食後は口腔ケアを行い、出来ない部分は援助行っている。自力でケアできない方には、歯磨きティッシュで口腔内清拭を行い、誤嚥性肺炎などの予防に努めている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握したり、表情やしぐさから読み取り、適時声掛けや誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量のチェックや、食事にも食物繊維や乳酸菌を考えた献立を、給食委員で考え提供し、個々に合わせた軽体操や歩行練習を行い、身体を動かすよう取り組んでいる。また、主治医に相談し、個々に合った排便コントロールを行っている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には週2回の入浴日を設定しているが、体調不良時は入浴日の変更を行っている。併設する施設の機械浴を、利用者の身体状況に合わせて使いわけ、安全な入浴にも取り組んでいる。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を充実し、適度な疲労感を持ち、夜間心地よく眠りにつけるよう努めている。また、AIを使用し、覚醒時に訪室を行い、気持ちよく眠れるように支援している。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方される毎に、薬情報と連絡ノートで周知を行い、薬に変更があった場合は、口頭の申し送りや連絡ノートを3日間続けて読み、全職員が確実に周知できるシステムで対応している。		
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や、洗濯物干したみなど、経験や能力を活かして頂く機会を設け、役割を持って頂いている。また、図書館外出、買い物外出、個々の趣味活動や季節毎に行事を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事でのドライブ、図書館へ本を借りて外出、嗜好品の買い物外出など支援、近隣の公園への散歩や、施設玄関前での外気浴などの機会を確保している。また、家族と一緒に出掛けることもある。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の金銭管理能力に応じ、所持している方もいますが、基本的には施設や家族管理しています。必要な物があれば、一緒に買い物に出かけたり、自動販売機へジュースを買いに行くこともあります。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より電話の希望があった場合は、スタッフが間に入り手伝いしながら、家族へ電話をかけたり、家族に確認しながら、お友達へ電話をかけたりしている。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下の天井は高く光が入り、ホールには加湿空気清浄器を設置している。とても明るく、広くゆっくりと過ごせる空間になっている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間が狭く、一人になれたり、気の合う方同士で過ごせる場所はないが、テーブルでの席は、気の合う方と隣になれるよう配置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやラジオ、置時計など使い慣れた物を持参している。また、家族の写真や遺影などを飾っている方もいる。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールが狭い分、普段は歩行器使用する方も、手すりや背もたれをつたい、一人で移動することができる。また、トイレにはトイレ表示、居室には人形を飾り分かりやすくしている。		